

千葉工大生に企業期待

NEWS CIT

2017
3.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 建都院生3人が若手優秀発表賞／林原教授ら3人が優秀講演賞／森田教授に大学体育優秀教員賞／AASSA31人がエリアI・II視察／29年度入試終了
- 3面 産官学フォーラムで4教授が発表／FD講演会開く／PM研究会第4回シンポ／米国電気電子学会研究者ら新習志野キャンパスに
- 4面 デザイン科学科卒展／「リ・デザイン」演習作品展／法典西小にロボット出張
- 5面 定年退職される皆さん
- 6面 CITものづくり作品発表会 今回で終了／天文研がドーム館で星空教室

OB・OG懇に119社

会社説明会が3月1日に解禁されて本格的にスタートした就職戦線で、千葉工大生には企業のごこれまで以上に熱い視線が注がれている。これに対応して大学も教員と職員が力を合わせた「就職協働」で学生支援に万全の態勢を取っている。今、一番大切なのは「油断するな!」準備をしっかりと、そして動け!だ。

就職活動 本格スタート



油断禁物 「準備しっかり」



① 津田沼キャンパスで開かれたOB・OG懇談会 ② 学生たちも真剣な表情

2月25日、津田沼キャンパスで昨年12月に続いて2回目のOB・OG懇談会が開かれ、午前の部と午後の部を合わせて119社が参加した。学生側も午前421人、午後424人が参加。会場の2号館大教室と同2階会議室、4号館1階はどこも熱気に包まれていた。

就職協働で 大学側支援

企業で活躍している本学の卒業生を招いて、就職希望者に有益なアドバイスをもらうのが趣旨のOB・OG懇談会。この場で最近、実感されるのは「先輩自身が感じている千葉工大に対する企業の期待感」という。「千葉工大卒は優秀だね」と会社内で言われる先輩が増えている。それが企業の千葉工大生に対する新たな期待につながっている(就職課スタッフ)。

メテオ観測 臨場体験

惑星探査ゾーンにレプリカ

東京スカイツリータワー東キャンパスのエリアII・惑星探査ゾーンに3月2日、新コンテンツが登場した。国際宇宙ステーション(ISS)米国実験棟デスティニー1内の観測設備を模したレプリカII写真IIで、現在、ISSの窓越しに流星を観測している本学惑星探査研究センターの超高感度ハイビジョンカメラ「メテオ」が、ISSから地球を見下ろし観測する様子を見ながら、宇宙飛行士目線で見ることが出来る。



流星や火球(マインス三等級以上の非常に明るい流星)のほか、地球の夜景や、宇宙から見る雷、オーロラなど、実際に撮影された映像がディスプレイ版で、随時更新される。隣接ブースには、ISSから届いた観測データが記録されたハードドライブを展示。昨年8月末にスペースXドラゴン補給船9号機で地球に持ち帰られ12月末に千葉工大に届いた。

を身に付けた工科系学生への企業の視線は一昨年より昨年、昨年より今年と熱さを増している。「それだけに、ここで油断は禁物。早く準備した学生ほど、早く結果につながる。これは就職活動の変わらぬ真実なのです」と、就職・進路支援部の福江聡部長は話している。

就職委員会・就職課は3月15、16、17日、今年第一回の合同企業説明会を開催。さらに4月、5月にも開催するほか、随時、個別企業説明会を開く予定。

オープンキャンパス2017
OPEN CAMPUS

6/18 10:00-18:00	8/6 10:00-18:00
10/29 12:00-18:00	12/10 12:30-18:00

千葉工業大学

マ成果 ラズマ 研究 本学4教授が発表

産官学連携フォーラム開く

産業界や官界、地域社会などとの交流を深めるため年に一度、本学の研究成果を外部に公開する2016年度の「産官学連携フォーラム」が2月28日、千葉工業大学産官学連携協議会の会員企業や大学院生・学部生などが参加して津田沼キャンパスで開かれた。写真。

今回、研究成果を発表したのは、応用化学科・尾上薫教授▽電気電子工学科・小田昭紀教授▽工学部教育センター・鈴木進教授▽先端材料工学科



ター運営委員長)を加えた5人で昨年度から学内組織「プラズマ・フォーラム」を結成している。プラズマ・フォーラムは文科省の科研費などの外部の競争的資金を獲得

するために、研究者同士の情報交換を密にして、結束を強めるのが狙い。附属研究所の助成を受けている。

5人の構成メンバーはそれぞれが独自の研究分野で優れた成果を上げ、産業界とも技術指導や受託研究などで密接な関係

を構築している。とりわけ基礎から応用まで異なる分野の研究者が横断的に集まっているケースは日本の私学では珍しい。

4人の研究発表は次の通り。

▽尾上教授 「反応場野で優れた成果を上げ、産業界とも技術指導や受託研究などで密接な関係

共創の技法を探る

PM研究会 第4回シンポジウム開く

PM学科の久保裕史教授が中心となって活動している「R&D PM研究会」が2月14日、「第4回R&Dプロジェクトマネジメント(PM)シンポジウム」を東京スカイ

ツリータウンキャンパスで開催。産業界や大学、官公庁などから満席の80人が参加した。

この研究会は2012年6月に発足し、研究開発にPM技法を適用する

ことで、革新的な製品やサービスを産み出す仕組みや組織作りの知識体系構築を目指している。当初は研究開発(R&D)の生産性向上に重点を置いていたが、最近は新しい価値創出のための技法

開発を中心に活動を進めている。

今回のテーマは「共創する R&Dプロジェクトマネジメント」。AIやIoT、ビッグデータなどの先端IT技術をフル活用し、供給者と顧客側が一体となって、インタストリー4.0(第4次産業革命)やサイエティ5.0(日本政府が進めるスマート社会計画)などの経済・社会面における大変革を実現しようという狙いだ。

第1セッションの招待講演は、産総研人工知能研究センター首席研究員

ICTで授業改善を

FD講演会で日大准教授が講演

教員と職員が力を合わせて、本学の教育力向上のための活動に取り組んでいるFD(Faculty Development)委員会(委員長・長尾徹デザイン科

学科教授 主催の講演会が2月22日、津田沼キャンパス2号館3階大教室で開かれた。写真。

冒頭のあいさつで小宮一仁学長は「今回が第3

回となるこの講演会で、先生方の授業にすぐに役立てていただける実践的な講演を外部の先生にお願しているが、職員の間にも多数参加していただき、教職協働が着々と進んでいることを実感している」と、会場を埋めた教職員に語りかけた。

講演は日本大危機管理学部の木村敦准教授による「今あるICT(Information and Communication Technology)を活用した授業改善」が最少のICTで最大の効果を。木村准教授は前任校の東京電機大でLMS

「フリーング・マネジメント・システム」を使って授業改善に取り組み、その成果をまとめた論文が私立大学情報教育協会の平成26年度教育改善研究発表会で奨励賞を受けている。

木村准教授は、グループワーク参加学生に関するデータをLMSのアンケート機能を使って収集し、学修プロセスを可視化するe-Logbookを開発。その内容を表計算ソフトのExcelや無料のクラウドストレージDropboxを使って表やグラフにして検証することで、学生の授業満足度アップや協調学習における欠席数の減少などをもたらすさまざまな授業改善策を実践したことを報告した。

これに対して、会場から「学生の積極的なアンケート回答を促すための動機付けは?」「グループ学習だと、積極的に議論に参加する学生と消極的な学生に分かれて、役割が固定してしまうのではないか?」など、さまざまな質問や意見が出て、木村准教授との間で活発な交流が展開された。

長尾教授の話 本学のFD活動は他大学に比べても活発に行われており、教職員の意識も盛り上がってきていると思います。この流れに乗って、大学院FDの充実や教職協働の中でのSD(Staff Development)活動もじっくり考えていきたいと思っています。

世界の頭脳 新習志野に

米国電気電子学会 日本で活動60周年

全世界に40万人を超える会員を有する世界最大の学会「IEEE」の日本

での活動が60周年を迎えたのを記念するイベントが3月3日、新習志野キャンパスで開催され、世界最先端の頭脳が本学に集結した。写真。

参加者は米国から駆けつけたカレン・パートソン会長をはじめとする米国本部の理事や役員、日本が所属するアジア・太平洋地域の各国にある支部の支部長、日本にある9支部に所属する大学教員や研究者、学生など合わせて約270人。

東京大の菅野卓雄名誉教授、東京工業大の西原明法教授、早稲田大の津田俊隆教授など日本を代表する研究者が次々に壇上であいさつ。会場の1号館大教室は世界の電気

電子学界を担う研究者の熱気に包まれた。

このイベントは、IEEEアジア・太平洋地域運営組織の理事会が3月4日から幕張メッセで開催されたのに合わせて開かれた。会場に新習志野キャンパスが選ばれたのは、情報工学科の佐波孝彦教授(副学長)が昨年、IEEE東京支部の理事を務めたことによる。佐波教授はIEEE通信ソサイエティでのアジア・太平洋地域の理事も務めている。



校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS

校の東京電機大でLMS



研究会であいさつする久保教授(右)

久保教授は、研究会のキーパーソン3人による研究成果の発表。最初は(株)リコーのシニアスペシャリスト、清田守氏による「魔の川・死の谷・ダーウィンの海を越えるR&D PM」。R&Dの現場で試行錯誤を繰り返しながら「使えるPM技法」を確立し、大きな成果を挙げた。

3番目はドアホン大手企業主事の加藤勇夫氏による「変化に強いR&Dプログラムマネジメント」。「顧客の視点」と「業務プロセスの視点」を同時に持つ「マルチプログラム・プラットフォーム」について報告した。

3日のイベントでは情報通信システム工学科の菅原真司教授、情報工学科の鎌倉浩嗣教授、今井順一教授と4研究室の大学院生合わせて10人が運営に協力した。

多領域に根を張り かたち生み出す

デザイン科学科 卒展 開く



いろいろな展示方法で来場者の動線を工夫



プラ段を生かした展示会場(2号館3階大教室)



暗室では会場のイメージががらりと変わる



実体験できる作品も多く並んだ

卒業を控えたデザイン科学科生たちが開く恒例「卒業研究展」が2月5、6日の2日間、津田沼校舎2号館・4号館で開催された。

卒業を控えたデザイン科学科生たちが開く恒例「卒業研究展」が2月5、6日の2日間、津田沼校舎2号館・4号館で開催された。

訪れ、学生たちの集大成を丁寧に見て回った。卒業展は、コンセプトに沿って広報班と展示班に分かれ、運営に向けて作業してきた。広報班は「デザインの根」のコンセプトが採用された小田彩花さん、菊池遥人さん(ともに赤澤智津子研)を中心に、パンフレットなどのメインビジュアルを制作。中村朋子さん

(長尾徹研)がポスターと案内ハガキを担当した。展示班は青嶋広輔さん(倉斗綾子研)と小池剛志さん(田邊里奈研)が中心となり、作品情報をもとに展示場所の割り振りや配置を計画、学年全員の作品を決められたスペースに収められた。パネル展示はプラスチック段ボール(プラ段)をパ

ーテーションに利用。暗室も整備するなど準備に追われた。会場は、2号館、4号館と建物を超えてたにもかかわらず来場者の動線を意識した配置がなされ、メリハリが利いた展示で好評だった。

終了後、小田さんは「4年間得た技術や知識、身につけた感覚・感性を表現したさまざまな作品が展示されました。制作し、展示し、評価していただくところまでが制作活動だと思っています。先生方をはじめ大勢の人々に見ていただいていたことを交わす、刺激ある展示会になったと思います」と振り返った。

デザイン科学科4年担任の倉斗准教授は「卒業研究は自分だけの成果、と考える学生も多いと思うが、最後にこの展示会の企画、準備、実施を通して自分たちの頭の中にあるイベントのイメージを、全員で協力してリアルな世界へアウトプットすることの大変さを知ってくれたのであれば、この学科で学ぶ大切なことの1つを習得できたといえるのではないかと話している。

リ・デザインに挑む

紙パッケージでデザ科演習 作品展

デザイン科学科1年生の2 semesterの必修科目「創造工学基礎演習2」で制作した課題作品を中心とする展示会が2月15日、津田沼キャンパス7号館で開催された。

授業は八馬智准教授と橋本都子教授が担当し、課題は「ペーパー・パッケージのリ・デザイン」。

「コンピニ」など身近にある商品の紙製パッケージのデザインを、さまざまな観点から分析。「つくろる人」「売る人」「買う人」の関係を意識して、商品そのものには手を加えずに「コンセプト」と「ターゲット」を変え、新たなパッケージを、新たなパッケージを、実物に近づけるようにすることで、購買者を受け取る価値や魅力の再構築を目指すプログラムだ。

有志の1年生27人と2年生14人。お菓子などの食品や日用雑貨、文房具などの商品を素材として、自分でコンセプトを再構築し、顧客層を具体的に

想定して、自分なりの新たな工夫をこらしたパッケージを作り上げた。この授業の特徴は、5〜6人のグループワークによるディスカッションやプレゼンテーションを繰り返して行うこと。これによって学生たちが多様な観点を獲得しながら、知識を共有し、思考を深めて、成果である作品の質を高めることにつながるという。

八馬准教授は「デザインは自分の思いを表現する。デザイナーは自分の思いを表現するためにデザインするのでなく、他者が欲しいと思うものをデザインすることが目的なのだ」ということを、1年生諸君にこの授業を通じて理解

してもらえらると思う」と話している。この作品展には、長尾徹教授が担当する「デザイン基礎2」の受講生有志7人も「見て美しく、持って心地よいと思う形状」という課題で制作した作品を出展した。また、28年度のCIITものづくり公募型に参加している「作品展示会」

体育館中央に設置されたロボットフィールドには、学生たち自慢の二足歩行ロボットが5台登場した。

また、ロボットバトルもお披露目。学生たちの真剣勝負に、応援の声が

また、ロボットバトルもお披露目。学生たちの真剣勝負に、応援の声が



先生からも貴重なアドバイスを受ける



フレキシブルワークスペースに並んだ作品の数々



作品のコンセプトを説明する学生



総工研の部員たちを囲む法典西小5年生



ロボットの仕組みに興味津々

法典西小にロボ出張

総工研が操縦指導、先川原室長が講義

船橋市立法典西小学校で3月7日、本学文化会サークル・総合工学研究会(石川直生部長)と未来ロボティクス学科2年の学生たちによる「ロボット操縦体験」と、未来ロボット技術研究センター(fuRo)の先川原正浩室長による「ロボット講義」が開かれ、5年生児童約120人が参加した。

体育館中央に設置されたロボットフィールドには、学生たち自慢の二足歩行ロボットが5台登場した。

また、ロボットバトルもお披露目。学生たちの真剣勝負に、応援の声が

「4年間得た技術や知識、身につけた感覚・感性を表現したさまざまな

定年退職される皆さん

3月に定年を迎えられる教職員の皆さんを紹介します。いろいろな思い出や学生たちへのエールなど、温かい言葉を残してくださいました。(敬称略)

教員 (8人)



土屋 正則 (教育センター・准教授)

何よりも健康を
長い間有難うございました。

理論と実践に基づいた教育研究に取り組む姿勢は学生や若手教員に評判。先生の探究心は退職後も続くでしょう。



依田 十久子 (教育センター・教授)

自分らしく
ありがとうございました。

面倒見がよく、全ての学生の名前と顔を覚えて対話。今でも多くの卒業生と親交が厚いのは、先生の人柄ゆえ。



小泉 俊雄 (建築都市環境学科・教授)

43年間お世話になりました。皆様のご活躍を願っております。
—信用ある人間となれ—

5回に及ぶブータン伝統住居の測量で教員・学生にチームの素晴らしさを教授。温かな笑顔の裏には熱い情熱が。



江尻 英治 (機械サイエンス学科・教授)

教育・研究を十分に楽しませていただきました。今後の大学の発展、卒業生のご活躍を心から願っています。

常にものづくりの実践を通して教育・研究指導を実施。先生の姿を見て多くの学生が夢と希望を抱いたという。

職員 (4人)



三須 敏行 (総務部付事務職員)

継続は力なり

物静かで温厚。優しくなれたれ目もカメラを構えるときリリ。千葉工大の歴史をいろいろな角度から残してくれた。



宮井喜久江 (学務課事務職員)

ありがとうございました。

物静かなたたずまいで先生との橋渡しを。トレードマークのヒールで万里の長城に臨んだ武勇伝は伝説に。



大田 勉 (経営情報科学科・教授)

学内外の多くの人の助けがありました。ありがとうございます!!

明るく誰にも平等に接する先生。学生と対話による授業が印象的。何事も恐れずチャレンジする姿を、皆が尊敬。



篠田 裕 (建築都市環境学科・助教)

心身の健康

研究室のモットーは「不言実行、礼儀、規律」。先生の言動には一切ブレがない。几帳面なので研究室も常に奇麗。



酒井 哲朗 (新習志野学生課警備主任)

感謝

皆様のご指導・ご支援・ご協力を得、有意義な勤務が出来ました。ありがとうございました。

学生たちや教職員を、いつも温かい笑顔で見守り続けてくれたラガーマン。フットワークのよさはピカイチ。



関上 悦子 (学生課課長補佐)

健康第一!

いつもそばにいてくれたお母さん。おおらかな優しさで愛で、学生たちはもとより、みんなを迎え入れてくれた。



五百井 俊宏 (プロジェクトマネジメント学科教授)

素晴らしい指導教授と学生に巡り会えました。心より感謝申し上げます。

常に冷静に対処する紳士。学生の意見を尊重、的確な指導は若い教員らの良い手本に。PM導入時代の立役者!



荻林 成章 (経営情報科学科・教授)

知識だけでなく、知識の学び方、クリエイティブの仕方を学んでください。

ユーモアにあふれる半面、研究への姿勢は厳しく熱く、探求心旺盛。お茶目な行動に驚かされる学生、数知れず。

荻林教授



篠田助教



江尻教授



五百井教授



大田教授



小泉教授



依田教授



思い出スナップ

最優秀賞「特殊3Dプリンター」

CIITものづくり作品発表会 今回で終了

平成28年度「CIITものづくり作品発表会」が3月1日、津田沼キャンパス2号館大教室で開催され、参加30作品の中から未来ロボティクス学科のグループの「特殊3Dプリンター」の製作が最優秀賞に、5作品が優秀賞に選ばれた。以下の別項に発表会では、まず小宮一仁学長があいさつで昨年12月に英国のハモンド財務相が東京スカイツリータウンキャンパスに展示されているfuroの最先端ロボット技術を視察に訪れたことを紹介し、「英国はかつて高性能の自動車を作る独自の技術を持っていたが、現在は外国の技術で自動車を作っている。しかしEUからの離脱を決めて、改めて工業力を伸ばす必要に迫られている。同様に資源に乏しい日本を支えるものは工業力であり、皆さんのものづくりへの取り組みは、日本の将来を担う一歩です」と語りかけた。



受賞した学生たち



作品の説明を受ける

発表会の会場

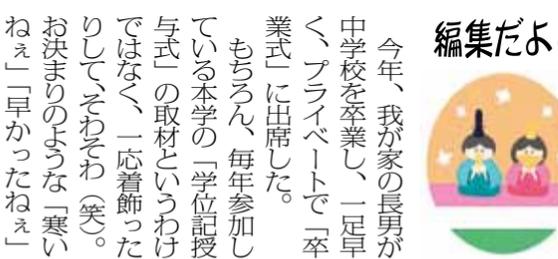
この後、参加者と見学者の投票で最優秀賞と優秀賞を選び、最優秀賞は小宮学長から、優秀賞は「CIITものづくり・ウィンググループ」代表の石塚明夫デザイン科学科教授からそれぞれの代表に賞状が手渡された。会場には千葉工大産官学連携協議会の会員企業から赤星工業▽アシザワ・ファインテック▽キーズファクトリー▽しのはらプレスサービス▽タツオカ▽フジキンの6社もブースを設けて自社の技術をアピールしていた。

会場は午前10時のオープニングから発表グループの熱気に満ち、参加学生たちは来場者に自分たちの作品を熱心に説明していた。正午からは壇上の大スクリーンを使ってデモンストラーションが行われ、発表グループの代表が放送研究会のインタビュアーに自分たちの作品を一生懸命にアピールしていた。

閉会後、石塚教授から「平成21年度に始まったCIITものづくりは、8回目の今回をもっていったん終わりにする」と明らかにされた。石塚教授はさらに「製作途中の作品は皆さんの手で完成させてほしい。また、皆さんが千葉工大で学ぶ専門分野の基礎づくりがで



④ 星座早見盤を作る



⑤ 天体望遠鏡をのぞく

きたと考えて、この経験を生かしてほしい」と呼びかけた。

▽日本古来の伝統技法を用いた金属工芸（瀧口瑛介・先端材料工学科、小澤俊平・先端材料工学科准教授）▽作品展示会のトータルデザイン（公募型、鍛冶本碧・デザイン科学科、八馬智・デザイン科学科准教授、田邊里奈・知能メディア工学科助教、若松弘樹・津田沼学生課）▽ハイブリッドロケットの製作と打ち上げ実験（公募型、高砂民明・機械サイエンス学科、和田豊・機械電子創成工学科准教授、海老根克磨・入試広報課）

この後、参加者と見学者の投票で最優秀賞と優秀賞を選び、最優秀賞は小宮学長から、優秀賞は「CIITものづくり・ウィンググループ」代表の石塚明夫デザイン科学科教授からそれぞれの代表に賞状が手渡された。会場には千葉工大産官学連携協議会の会員企業から赤星工業▽アシザワ・ファインテック▽キーズファクトリー▽しのはらプレスサービス▽タツオカ▽フジキンの6社もブースを設けて自社の技術をアピールしていた。

閉会後、石塚教授から「平成21年度に始まったCIITものづくりは、8回目の今回をもっていったん終わりにする」と明らかにされた。石塚教授はさらに「製作途中の作品は皆さんの手で完成させてほしい。また、皆さんが千葉工大で学ぶ専門分野の基礎づくりがで

閉会後、石塚教授から「平成21年度に始まったCIITものづくりは、8回目の今回をもっていったん終わりにする」と明らかにされた。石塚教授はさらに「製作途中の作品は皆さんの手で完成させてほしい。また、皆さんが千葉工大で学ぶ専門分野の基礎づくりがで



④ 星座早見盤を作る



⑤ 天体望遠鏡をのぞく

きたと考えて、この経験を生かしてほしい」と呼びかけた。

▽日本古来の伝統技法を用いた金属工芸（瀧口瑛介・先端材料工学科、小澤俊平・先端材料工学科准教授）▽作品展示会のトータルデザイン（公募型、鍛冶本碧・デザイン科学科、八馬智・デザイン科学科准教授、田邊里奈・知能メディア工学科助教、若松弘樹・津田沼学生課）▽ハイブリッドロケットの製作と打ち上げ実験（公募型、高砂民明・機械サイエンス学科、和田豊・機械電子創成工学科准教授、海老根克磨・入試広報課）

星空教室に親子120人

天文研が習志野ドーム館で開催

文化会天文研究部（館山祥之部長）金融・経営リスク科学科2年）が主催し、プラネタリウムや天体観測を楽しむ「星空教室」（習志野市教育委員会共催）が3月4日の土曜日午後3時から、習志野市総合教育センタードーム館（旧プラネタリウム館）東習志野3丁目で開催された。

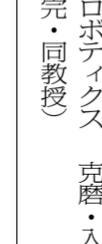
習志野市内の小学生と保護者約120人が参加。部員紹介後、前半は星座にまつわる歴史を取り上げ、みんなで星座早見盤を作成した。後半は参加者希望のプラネタリウム上映。季節の星座が大天井に映し出され、夜空の美しい星々も忘れた様子。その後、

戸外に出て望遠鏡で天体観測。金星、火星などの惑星を見た子供たちは大はしゃぎ。保護者たちも一緒に望遠鏡をのぞいた。参加人数がこれまでで最多の約120人と多く、1年生部員の中には、コミュニケーションをとるのに苦労した、と反省の声があった。今回教室は昨年10月、前部長の土佐和也さん

（電気電子情報工学科3年）と小山大輔さん（同）を中心に企画・立案され規模が進展。リハールを経て実施された。会場の教育センタードーム館は平成22年にプラネタリウムを休止。投影機材は利用できず、プロジェクターを使うなどして工夫を凝らした。館山部長は「慣れない場所での大規模イベントで、反省点は多々ありますが、天体望遠鏡をのぞく皆さんの笑顔を見て安心してました。何より部員一同が楽しんで終了できました」と話した。今後定期的な星空観測教室開催を目標に、内容の充実や部員育成に力を入れていくという。

▽日本古来の伝統技法を用いた金属工芸（瀧口瑛介・先端材料工学科、小澤俊平・先端材料工学科准教授）▽作品展示会のトータルデザイン（公募型、鍛冶本碧・デザイン科学科、八馬智・デザイン科学科准教授、田邊里奈・知能メディア工学科助教、若松弘樹・津田沼学生課）▽ハイブリッドロケットの製作と打ち上げ実験（公募型、高砂民明・機械サイエンス学科、和田豊・機械電子創成工学科准教授、海老根克磨・入試広報課）

同窓会



同窓会は新卒業生を迎え、8万4200名になりました。1期生を輩出した昭和22年から今年9月で70年。大学も5月には創立75周年を迎える、記念すべき節目の年です。平成元年以降の同窓生数も5万人を超えて、平成卒の活躍が盛んに聞こえてくるようになります。

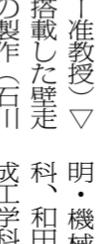
記録を紐解くと、創立時には、大正生まれの学生へ、明治生まれの教授が教えていたとの事。平成生まれの師弟誕生が待ち望まれます。いずれにしても母校でそれぞれの時代を過ごした思いを、次の世代へ語り継いでいきたいものです。

さて、同窓会でも、卒業後の就職や、Uターン就職支援を行っています。郷里に戻る際は、提供出来る情報もあります。

最後にご父母の皆様へ、4月から新社会人として、皆様が進める会社に卒業生が入られた際は企業人として活躍できる人財となれますよう、お力添えを、お願い致します。

同窓会事務局 磯海 善隆

四季雑感



心不全で倒れ、奇跡的に復職して2年が経過した。2014年11月25日の午前に講義を行い、普段と変わらぬ研究室生活を過ごしていた私にとって突然の呼吸困難は青天の霹靂の出来事であった。二ヶ所の病院で冠動脈の閉塞に対する緊急措置

置および僧帽弁置換、冠動脈バイパスの緊急手術を行っていたのだが、倒れた直後から4週間の記憶がまったくない。大病の要因については「健康に対する過信と生活習慣に対する誤解」という看護師さん表現につきる。さらに、早期退院を切望する私を以下の言葉で諭されたのも忘れられない。「お医者さんはあなたの病気と向き合っているの。私たちはあなた

たの人生と向き合っているの。まだまだ退院させるとはいかないわ」。今回の病気で私には新たな誕生日ができた。意識が復活した12月19日実践しており、退院後の朝食は毎日自分で用意している。第二の人生を楽しむことで、周囲の皆さんに感謝と御礼の気持ちを表したい。

応用化学科 尾上 薫

入試広報課 大橋 慶子

編集だより



今年、我が家の長男が中学校を卒業し、一足早く、プライベートで「卒業式」に出席した。もちろん、毎年参加している本学の「学位記授与式」の取材というわけではなく、「一応着飾ったりして、そぞろわ（笑）」お決まりのような「寒いねえ」「早かったねえ」

などと仲のいいママ友と会話を交わし、寒い体育館の保護者席に座った。受付で手渡されたピンクの冊子が、式次第でなく、息子からの「感謝の手紙」だと気づき、慌てて開いてみると「炊事、洗濯などを、いつもしてくれてありがとう」といった内容がびっしりと埋められていて、不意の攻撃に2行ほど読んで「ダメだ、泣いてしまう」と、閉じてしまった。

母親なら当たり前のことだと思っていたことに、「感謝してるよ。ありがとう」とって、なんだか照れくさいけど嬉しいものだ。

3月22日、本学の学位記授与式まであとわずか。学生の皆さんにも、普段は恥ずかしくて言えなかつた事が言えるチャンス到来！4年間分の感謝の気持ちを、ぜひ、声に出して伝えよう。ご卒業、本当におめでとうございます。

入試広報課 大橋 慶子